平山政利議員
（創匝の会）

市長の政治姿勢

問　市長自らの４年間の市政運営をどのように総括するのか伺う。

答　「市長」市民の安心安全、そして暮らしやすいまちづくりに全力で取り組んできた。就任当初は、まだ新型コロナウイルスによるコロナ禍が続く状況であり、ワクチン接種が円滑に行える体制の構築や市独自支援策の強化により、市民、事業者支援等に努めてきたところである。また、自宅療養者の支援にも取り組み、そして、市民病院の建て替え整備や消防署の建設、令和６年３月に開通した銚子連絡道路の延伸効果を生かす新たな産業用地の整備、匝瑳市ゼロカーボンシティの実現と地域の課題解決を併せ持つ脱炭素社会の実現に向けた取組など、未来へ向けた基盤づくりに確かな一歩を刻むことができた。

問　これまで進められた具体的な施策の進捗状況や財政面を含めた今後の課題について伺う。

答　「市長」新病院の建設地が確定し、基本設計業務がこの10月に完了する予定としている。銚子連絡道路インターチェンジ周辺の整備では、関係権利者で組織する匝瑳インターチェンジ周辺まちづくり協議会を本年１月に設立し、事業化検討パートナーを決定したところである。

問　来年２月に予定されている市長選について、ずばり再選についてはどう考えているのか。宮内市長の考えを伺う。

答　「市長」「今住む人が幸せに暮らし、若者や子どもたちが住み続ける地域づくり」を必ず実現するため、これまでの４年間の経験を糧に、さらに一歩踏み込み、果敢に政策を前進させてまいる。その上で、市民の皆様からご信任をいただけるのであれば、引き続き市長として先頭に立たせていただき、愛するこの匝瑳市の発展のために力の限り努力すること、また、骨身を惜しまず一生懸命に働く決意を新たにしたところ。ここに、来年２月執行予定の匝瑳市長選挙への立候補を正式に表明する。

問　市長には、引き続き匝瑳市を牽引するリーダーとして、これまで以上に多くの人の声に耳を傾け、内に秘めた強い意志を前面に出して、何よりも市長の強みであるお人柄、経験から得た多くの人とのつながりを最大限に生かし、引き続き匝瑳市のため、匝瑳市の未来のため、そして、何よりも市民のために頑張っていただきたいと思うが。

答　「市長」ご期待に添えるよう頑張りたいと思う。

林　明敏議員
（市民クラブ）

市民病院

問　近隣病院の基準外繰入について伺う。

答　「市民病院事務局長」各病院の令和６年度の決算状況で、旭中央病院は６億７、７１５万５、０００円、香取おみがわ医療センターは２億２、９２０万６、０００円、国保多古中央病院は１億９、７５７万２、０００円、東陽病院はゼロ、銚子市立病院は４億４、８００万５、０００円、匝瑳市民病院は８、１１６万９、０００円となっている。

過疎対策事業

問　過疎対策事業の今後の実施事業について伺う。

答　「市長」本年度末をもって計画期間が終期を迎えるので、現在、令和８年度から令和12年度を新たな計画期間とした計画の見直しを進めている。新たな事業として追加予定しているものは、観光施設整備事業、有機農業推進事業、生活交通路線維持事業、バイオディーゼル製造事業、自家消費型太陽光発電設備等導入事業。

にぎわい交流施設

問　産業用地整備推進事業における、にぎわい交流施設は民間施設を誘致してはどうか。

答　「市長」にぎわい交流施設をインターチェンジ直近に配置し、農産物直売所や集客力のある機能を付加することを想定している。市としては、新たな雇用の創出や税収の増加が見込める産業集積を目指し、企業誘致に取り組んでまいりたいと考えているが、この事業区域がインターチェンジに直結するという立地特性や市の財政状況、社会経済情勢などを十分に考慮し、にぎわい交流施設の在り方等について事業化検討パートナーと連携し、検討してまいる。

耐震防火水槽

問　耐震防火水槽の設置率及び設置目標は。

答　「市長」耐震性防火水槽は、消火栓等を補完する目的で、大規模な地震が発生した場合の火災に備え、耐震性を有するものを地域の実情に応じて配置する消防水利。市内における防火水槽は、民間事業者等が設置したものを含め、市内に約５５０か所設置されており、そのうち耐震性防火水槽は32か所なので、防火水槽全体に占める耐震性防火水槽の割合は約５・８％となっている。なお、設置目標は具体的に定めていないが、現在、設置してある防火水槽の維持管理に取り組むとともに、防火水槽の更新時において耐震性防火水槽を検討するなどして、火災に備えていきたい。

ＱＲコードを読み取ると質問した議員の録画映像が視聴できます。